

「認知」、「判断・予測」、「操作」それぞれのミスの要因は？

- ① **認知ミス** — “ぼんやり”、“思い込み”が主要因—
- ② **判断・予測ミス** — “思い込み”が主要因—
- ③ **操作ミス** — “慌て”、“パニック”、“思い込み”が主要因—

人間のミスの特徴と、ミスを防止あるいはミスを重ねないための要点！

- (1) ミスの種類は、認知段階、判断・予測段階の順に多く、操作段階は少ない。
- (2) ミスの数は、当事者一人当たり2～3件。言い換えると事故を回避できる機会は二度以上ある。
- (3) 交差直進車を見落とす場合が多く、その理由は“ぼんやり”といった運転への集中度の低下や、誰も出てくるはずがないという“思い込み”のための確認不十分、「見ようと思えば見えたのに見なかった」ミスが多い。
- (4) 一方、交差点そのものを見落とすことは少なく、「交差点」を認知したときに、「交差道路には誰もいないだろう」ではなく、“交差道路には誰がいるかもしれない”という安全指向の判断・予測、いわゆる防衛運転に心掛けることにより、交差直進車に対する認知ミスを挽回できたと考えられる事例が少なくない。
- (5) 以上のミスを防止するには、
 - a. **運転するときには運転に集中する。**
 - b. **信号や一時停止のある交差点で、自分が優先であることが明らかであっても、必ず他車の確認をする。**
 - c. **見通しが悪く誰もいないような交差点でも、「誰もいない」と思うのではなく、“見えないけれど誰がいるかもしれない”といった防衛運転をする。**

高齢歩行者の交通安全 危険が増す夜の道

事故の危険が高まる夜の道。高齢歩行者の死亡事故も、やはり夜間に多く発生しています。夜間の事故を避けるためには、交通ルールを守ることはもちろん、車から早く発見してもらうための工夫も必要です。明るい服装や反射材で、夜間の安全を確保しましょう。